

【タイム】 下降開始(12:30)→下降終了(14:20)

天王川(梓沢)左俣

1990年9月23日

L1

12:10遡行開始。沢ぞいの踏跡がつきるまではずっと平凡な流れが続く。杉の造林地が終わり、沢ぞいの踏跡がはっきりしなくなると、沢にはナメと小滝が見られるようになってきた。でも、両方ともポツリポツリという感じである。そのうち沢がだんだんと細くなってきて、源頭までこんな調子でいってしまうのかなあと思っていた頃、4mのトイ状滝が出てきた。今までの滝より落差はあるが、登るにはそう苦労しない。水流の右側を楽に直登できた。

滝の上はますます沢の規模が小さくなる。まあまあ滝が1本あったから後はもういいやと話していたら、今度は4mの滝1個を含んだ連続が出てきた。4m滝以外は落差も小さく、別にどうということもない。4m滝は、ちょっと登れず、右岸から捲いて上に出た。

このあとはもう完全に源流の装い。沢はますます細くなってゆく。13:35、もうよかろうということになって、遡行終了とする。

(記)

【タイム】 出合(12:10)→遡行終了(13:35)

茨籬沢(仮称)左俣

1990年10月14日

L

出合付近に車を置き、遡行を開始する。沢は平坦で滝は期待できそうにないが、ナメが続いて良い感じがする。沢は途中蛇行している。20分程で二俣に着く。水量比1:1である。この間の標高差は20mで、さして変化もない。地図には堰堤の記号が記されているが、確認することはできなかった。

二俣で昼食をとった後、右俣を遡行する加藤・鈴木パーティと別れて、左俣に入る。左俣に入ると、沢は極端に狭くなり、少し進むとヤブがかぶさって歩きづ

